

人権コラム 心、豊かに

◆変わらない大切なこと

12月20日は「シーラカンスの日」です。1952年（昭和27年）のこの日、アフリカ・マダガスカル島沖でシーラカンスが捕獲され、学術調査が行われたことにちなんで制定されました。シーラカンスは約6,550万年前から現在まで、ほとんどその姿を変えていないことから「生きた化石」とも呼ばれています。しかし、シーラカンスのように長い時間の流れの中で姿を留める生物は多くありません。その多くは環境などに適応するため、姿を変化させてきました。

それは私たち人間の社会も同様で、長い時間の中で少しずつ変化していき、現代では多様な考え方や生き方が認められるようになってきました。

例えば、歴史的な過程の中で形づくられた身分的差別が身分制度の廃止等を経ても、未だなくならず、結婚や就職などの場面で不利な扱いを受けてしまう部落差別です。現在でも、インターネット上で部落差別問題について誤った認識によって、誹謗中傷されたり、動画サイトなどで差別意識を煽るような動画が公開されたりするなどの事象が起きています。

その他にも「男性は仕事、女性は家事や育児、介護を担うべき」などの古い価値観によって女性が社会の中で固定的役割分担を押し付けられてしまう問題や、セクシュアル・マイノリティの人たちが、周囲の理解不足から差別的な言動を受けることや、勇気を出して打ち明けた相手が本人の了承なく他人にそれを伝えてしまう「アウティング」といった問題もあるのです。

このように、古い価値観のままでは、無意識に相手を傷つけてしまうかもしれません。そうならないためには人権意識を時代に合わせてアップデートさせる必要があります。そして、「思いやりの心」といった本当に大切なものだけを次の世代に形を変えず受け継いでいくことが重要なのではないのでしょうか。